

ふるさと探検隊

～見て 聞いて 身近な発見!～

久慈川の河原で、恐る恐る自分の手で鮭の稚魚を放流する子どもたち。小さな尾ひれを動かし、新たな世界へと元気に泳ぎ出す稚魚を見守っていました。

市内の農業施設見学や様々な体験をとおして、子どもたちに市の農業などに親しんでもらおうと実施している「ふるさと探検隊」。3回目となった今回は1月29日に、塩田小・小瀬小・長倉小の児童や教員、保護者など約50人が参加しました。参加者は、辰ノ口堰の上にて堰や魚道の役割の説明受け、さらに、鮭の稚魚ふ化施設を見学し稚魚を見たり生態について学んだあと、いよいよ稚魚を放流。放たれた体長4～5センチほどの稚魚は3～4年後体長70センチほどに成長して生まれた川をめざします。しかし、放流した鮭が無事に戻ってこられる確率は、約100匹のうち2匹ほど。みんなで、一匹でも多く、元気にこの川に戻ってこられることを願いました。



場所を東部コミュニティセンターに移し、節分用の升を手作りした後は、地元でとれたブランド米「うまかっぺ」のおにぎりと、地元産野菜たっぷりの豚汁で昼食。堰のおかげで作られるおいしい農産物をお腹いっぱい食べて、水の大切さを実感できたでしょうか。

凍み入る美しさ

雪が残り凍った道を注意して進むと、突然目の前に現れる氷の柱。長いものは2～3メートルほどにもなっていました。

これは、市内上町の甲神社下の崖に生まれた大きな氷柱。地層の間から染み出す水が凍ってできたもので、例年にない今年の寒さのために、驚くほど大きな芸術作品の完成となりました。

地元や水戸市などの近隣市町村からも見物に訪れた方たちは、自然の生み出す美しさに、しばし黙って魅入っていました。



常陸大宮済生会病院
建設状況カメラ
—平成18年2月1日現在—



●病院ホームページもご覧ください。
アドレス <http://www.ho-saisei.jp>

広報 常陸大宮 2月 第17号

発行日 平成18年2月15日
編集・発行
常陸大宮市総務部情報政策課
〒319-2292
茨城県常陸大宮市中富町3135-6
☎ 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010
E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp
URL <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>

□広報常陸大宮は、ホームページでも
ご覧になれます。

空高く舞い揚がれ!親子たこ揚げ大会

今年創立53年を迎える山方保育所は、11年前に親子のふれあいの大切さを感じ、親子たこ揚げ大会を始め、今年は1月15日に実施されました。

ビニールに絵を描いて竹ひごを2本付け、糸を付ければもうできあがり。早速、神奉地の河原でたこ揚げをはじめると、久慈川の風を受けながらぐんぐんと空高く揚がっていきました。

また、園庭や室内では羽根つきやこままわし、カルタとりなどのお正月あそびを楽しみました。

「初めてです」と、ご夫婦で仲良く羽根をつく姿や手の平で得意そうにこまを回すお父さんの姿、子どもたちのうれしそうな顔が印象的でした。

今ではめったに見られなくなってしまったたこ揚げの風景ですが、たこは平和の象徴と言われ、ほとんどの国々にあるそうです。

これからも、日本文化の継承と親子の思い出づくりのために続けていきたい行事です。



常陸大宮市の人口 (1月1日現在・推計常住者)

総人口47,686人 (男23,228人、女24,458人)
世帯数16,020世帯



古紙配合率100%再生紙を使用しています